

行政報告

(平成13年9月定例町議会)

議員各位におかれましては、公私共に何かとご多用のところ、第3回定例町議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

この機会に、去る6月定例町議会以降における町政執行の概要について報告させていただきます。

はじめに、9月9日から12日にかけての秋雨前線及び台風15号による被害についてであります。9月10日午後6時40分の大雨洪水警報発令に伴い警戒体制をしき、気象情報の収集と被害状況の把握に努めておりましたが、翌11日午後2時30分までの総雨量が152ミリメートルに及んだこと、さらに12日までに100ミリメートルを越える予想雨量が発表されたことに加え、日の出ダムの貯水量が限界を越えて、コルコニウシュベツ川に流れ込み、流域に冠水被害を及ぼすことが予想されたため、11日午後3時に災害対策本部を設置いたしました。

本部設置後は、防災行政無線臨時放送により地域住民への情報伝達、日の出ダム越流に伴うコルコニウシュベツ川流域の監視、避難所開設準備、輸送バス運行準備など、富良野土地改良区、上川南部消防事務組合、上富良野消防団など関係機関と連携した対策を講じました。12日に入ってから、雨量が少なくなる一方で、日の出ダムへの流入水量が増加の一途をたどり、午前5時48分、ダムの越水が始まりました。

幸い、その後雨量が減ったことからコルコニウシュベツ川の水位が安定し、下流域での河川氾濫が回避されるとともに、午前7時40分には大雨警報が解除、引き続き午前10時30分に洪水警報が解除、その後の気象予報などを総合的に判断し、日の出ダム及びコルコニウシュベツ川の巡回監視は継続することとして、12日午後4時30分に災害対策本部を廃止いたしました。

今回の災害対策本部の設置に伴い、住民への情報提供のあり方、関係機関との情報共有、諸対策の連携など、実践内容を検証、分析し、今後の災害対策に備えて参りたいと存じます。

被害の状況と復旧経費については、公共土木施設では、町道路線38か所の側溝埋没・決壊・横断管布設、路肩崩壊・土砂流失、排水埋没、法面洗掘等により、復旧経費1,560万円。

農業用施設では、農道路路肩崩壊・流出、排水路埋没など6か所で、復旧経費2百万円。

合計復旧経費は、44か所で、1,760万円となり、今定例会に補正予算第3号として、特別交付税を収入にあおぎ、追加上程させていただきます。また、町有重機械による直営復旧工事も行っております。

農地並びに農作物被害状況につきましては、9月12日に農業者にファックスで被害状況の報告を依頼し、9月18日現在のとりまとめ概要は、農地流亡による法面崩壊・埋没等3か所、面積で0.45ヘクタール、復旧金額110万円程度、さらに農作物被害は、冠水約65ヘクタール、流失・埋没約6ヘクタール程度、合計71ヘクタールの被害でありました。

作物別には、豆類約30ヘクタール、玉ねぎ20ヘクタール、秋小麦約17ヘクタール、その他約4ヘクタールであります。

農作物の被害金額は、現在集計中であります。

冠水被害地の営農技術諸対策につきましては、腐敗等を防止するための排水対策を実施するよう全農家に周知周知したところであります。

次に、町制施行50周年についてであります。今年8月1日、我が町は、上富良野村から上富良野町になって、ちょうど50年を迎えました。この町制施行50周年を記念して、昭和26年から平成13年までの歴史の概要と行政に係わる機関や組織の名簿をまとめた「かみふらの50年のあゆみ」を発刊いたしました。

50年の節目にあたり、培われた歴史を大切に、さらなる上富良野の発展に尽くして参りたいと考えております。

また、町制施行50周年記念行事の一環として、9月3日に開催しました「防災まちづくり講演会」についてであります。北海道大学大学院理学研究科の岡田 弘教授を講師に招き、「噴火予知と減災の科学」を演題に、2000年有珠山噴火災害を教訓とした火山噴火の予知、地域住民と行政が一体となった減災事例を講演していただきました。地域住民をはじめ、上川管内・富良野沿線の自治体、防災関係機関から270名の参加をいただき、盛会のうちに終了することができました。

昭和63年から翌年にかけての十勝岳小噴火以降、13年の歳月が経ち、地域住民の記憶も薄らいできている中、改めて十勝岳の正しい知識と防災対策を知り、平常時から危機管理の意識を持つための良い機会となったのではないかと考えております。

次に、十勝岳の火山活動状況について、住民の皆様に対しまして、広報かみふらの8月

号によりお知らせしたところでありますが、6月25日から28日にかけて旭川地方気象台が実施しました十勝岳の火山活動現地観測の概況をご報告させていただきます。昨年9月の現地観測に比べ、各火口の状況に大きな変化はなく、62-2火口は依然として活発な噴煙活動を続けています。赤外放射温度計による62-2火口の最高温度は471℃で、依然高温状態が続いています。火口内には多数の噴気孔があり、白色の噴気を勢いよく噴出しています。また、昨年8月に火口底に確認した熱泥水の噴出は、噴煙が多いため確認できませんでした。火山性地震は、引き続き少ない状態で経過しています。

次に、旭川土木現業所執行の移動入札についてであります。かねてより経済振興の一助として要望していました旭川土木現業所の移動入札が、9月6日本町のセントラルプラザを会場に執行されました。

本入札にあたっては、46件の事案について、230業者、約250名の参加により執行されたところであり、本町には約60名の宿泊をいただくなど、一定の経済効果をもたらしたものと考えています。また、北海道の入札執行を直接研修する機会を得られたことも大きな成果と受けとめているところであり、来年度以降においても、本町を会場に執行されるよう要望を続けて参りたいと考えています。

次に、防衛施設周辺整備事業の要望関係であります。陸上幕僚監部、防衛施設庁等に対しまして、継続事業10件、ポロピナイ川改修工事、北24号道路整備の新規事業2件、さらに環境保全対策を要望して参りました。また、引き続き来年度以降の町財政も予算も厳しいことから、6月

26日と27日に、総務省、財務省、防衛施設庁に対し、基地交付金関係予算に関する要望を行い、さらに、9月13日と14日、防衛施設庁及び陸上幕僚監部に対し、来年度から配備が予定されている装軌車輛の重量化に伴う、町道橋（富原橋）架換工事と町道北24号道路改修工事整備等の要望を行いました。

また、防衛事業以外では、8月30日、北海道砂防災害課に対しまして、十勝岳の火山泥流対策を初め河川改修事業の早期調査及び着工を要望したところであります。

次に、7月9日と10日に実施されました平成12年度防衛施設庁所管の会計実施検査についてであります。対象事業20件のうち神谷川改修工事、児童公園等整備事業ほか、4件が受検対象となり、書類及び現地検査が行われ、いずれの事業も適正に執行されていることで終了いたしました。

次に、クリーンセンターのダイオキシン類についてであります。昨年8月28日に実施しましたダイオキシン類の測定数値が、建設工事発注仕様書の目標数値の5ナノグラムを大きく上回ったことから、地区協議会をはじめ住民の皆様には大変ご心配をおかけしたところであります。

早速、その対応をするため、12月14日から約1ヵ月にわたり、焼却施設を休止して、各種調査、試験、改善対策を実施し、その後2回のダイオキシン類測定で、いずれも目標数値を下回ったことから、4月2日から低減対策等を講じて稼働し、現在もその経過をみているところであります。

1月23日のダイオキシン類測定以後の状況等を把握するため、7月12日と13日に本年度1回目のダイオキシン類測定を実施し、9月5日に測定数値の速報を受けたところ、焼却炉A系では0.88ナノグラム、B系では4.6ナノグラムで、目標値をクリアしているところであります。

また、活性炭を噴霧した測定では、A系では0.076ナノグラム、B系では0.063ナノグラムとかなり低い数値でありました。

現在、施行業者においては、最終報告書を取りまとめ中で、もう少し整理に時間がかかることから、提出を受けた後に報告をして参ります。

また、最終報告書を受けてからダイオキシン類の測定を実施し、今後とも安定した稼働ができるか確認して参りたいと考えております。

次に交通安全運動の取り組みであります。昨年北海道の交通事故死者数は548人で前年比12人増という誠に憂慮すべき事態となり、平成4年以来9年連続全国ワーストワンとなっております。

今年は、ワーストワン返上のため富良野沿線の関係機関が中心となり、交通安全運動に取り組んできたところでありますが、8月4日未明、本町の国道237号線北23号先の交差点で、死亡事故が発生し、関係機関をはじめ住民と一緒に取り組んできました「交通事故死ゼロの日」が617日でストップしてしまい、残念な結果に終わりました。

この8月に入りましてから富良野警察署管内では、8月1日に南富良野町で、また11日、14日には富良野市で、わずか2週間の間に富良野沿線で4件の交通死亡事故が発生し、6名の方の尊い命が失われるという過去に例のない異常な事態となってしまいました。

このことから8月17日に「富良野地区交通死亡事故抑制緊急対策会議」が開催され富良野警察署はじめ、富良野沿線市町村、関係機関、団体が連携し、住民の協力を得て交通安

全運動を実施することになり、8月22日には、沿線市町村一斉の旗波作戦をはじめ、沿線首長連名によるメッセージの各戸配布、週末のパトライト作戦、防災無線活用による広報などを実施し、悲惨な交通事故が無くなるよう交通安全運動の展開に取り組んでいるところでもあります。

次に、9月15日に社会教育総合センターで開催しました敬老会についてであります。敬老会の対象につきましては、昨年まで、数え年70歳以上の方にご案内していましたが、我が国の平均寿命も世界一の長寿国となり、高齢者の増加、また年齢に対する意識の変化などから、本年度より

1歳ずつ引き上げ、平成18年度には満75歳以上の方を対象とするよう見直しを行ったところでもあります。

今年は、満70歳以上の方々、1,641名の対象者のうち、喜寿(77歳)を迎えられた方は96名、米寿(88歳)の方が30名、白寿(99歳)の方が3名、さらに数え年100歳以上の方が5名いらっしゃいました。

敬老会は、ボランティアグループのご協力と、文化連盟の皆様の余興により、盛会に終了することができ、参加いただきました皆様にも楽しいひとときを過ごしていただけたものと思います。

次に、農業関係であります。今年の融雪期は平年並で、春先は好天に恵まれて、農作業も順調に進み、定植後、農作物の生育は順調に推移して参りましたが、6月下旬の大雨と7月に入ってからの長雨、日照不足による、影響を懸念しております。

さらに、9月9日から12日にかけての秋雨前線及び台風15号により、平野部の転作田が冠水し、畑地帯においては土壌の流出などによって、たまねぎ、馬鈴薯、豆類等、また、新植秋まき小麦が影響を受けたところでもあります。

水稻においては、8月上旬の低温により穂ぞろいがやや悪い状態ではありますが、9月20日頃から収穫作業が予定されております。

秋まき小麦においては、茎数不足による減収と、豆類、人参、玉ねぎなどの畑作物においても、長雨による影響で品質の低下が懸念されるところでもあります。

今後におきましては、農協、関係機関等と連携を取りながら営農技術対策に万全を期すとともに、各作物の収量増加を願うところでもあります。

次に、日の出公園オートキャンプ場についてであります。上富良野振興公社に管理運

営を委託し、7月に開設したところであります。

7月～8月、2ヶ月間の利用状況は、計画を大きく上回り、7千400人の方々にご利用いただきました。地域別利用者の内訳では、道外からの方が64.4%、道内の方が32.4%、町内の方が3.2%となっております。これらの利用者からいただきましたご意見、要望等は、今後の運営に生かして参りたいと考えております。

次に、ラベンダーまつりと火まつりについてであります。7月21日と22日の両日にわたり開催しました第23回かみふらのラベンダーまつりは、好天に恵まれ、ラベンダーの花も昨年並みの開花となり、4万人の観光客をお迎えし、盛会のうちに終了することができました。

今年はじめ、山頂までのシャトルバスを運行し、7月1ヵ月の運行期間中延べ1万5千人の利用をいただき、日の出公園無料駐車場も好評のうちにシーズンを終えることができました。

また、8月4日に開催しました第19回かみふらの十勝岳火まつりにつきましても、全町挙げての取り組みにより、肌寒い気温のなかにあって、1万5千人の入り込みとなりました。

これらのイベント開催にあたりましては、関係者の皆様方のご支援、ご協力に対し厚くお礼を申し上げますとともに、今後も、町内観光関係諸団体、関係者との連携のもと、より一層の地域振興に努めて参ります。

次に、友好都市提携を結んでおりますカムローズ市より招致しております英語指導助手についてであります。今年7月をもって任期が満了しましたジョン・リンドストランドご夫妻が帰国され、引き続き後任の英語指導助手として、カムローズ市で選考していただいたモリーン・ボルデングさんが、7月19日に当町に赴任されました。

モリーン・ボルデングさんは、本年アルバータ大学を卒業され、性格はとても明るく、教師としての資質にも優れた女性ですので、学校教育と社会教育のみならず、両市町間の友好親善にも素晴らしい活躍をしていただけるものと期待しているところであります。

最後に建設工事の発注状況であります。お手元に配布しました建設工事発注状況のとおり、6月定例会報告以降、9月3日現在で、入札執行した建設工事は、28件、事業費総額5億5千7百14万5百円であり、前回までと合わせますと、61件で12億7百6

万9千5百円となっております。

事業費総額に対する執行状況についてであります。一般会計の工事請負費予算総額14億8千62万6千円から、各所管課で発注する小額工事及び執行残を除いた13億9千87万7千円に対して、発注額は9億5千8百74万9千円で、執行率は69パーセントとなっております。

障害防止事業、町道の舗装及び公共下水道新設工事数工区の発注を残し、概ね、本年度の発注を終えたところであります。

以上をもちまして、行政報告といたします。

被害の状況と復旧経費については、